

石巻食品輸出振興協議会

お話をお聞きした方

左：石巻市産業部水産課

三浦 宏仁 さん

右：(株)フィッシャー・マン・ジャパン・マーケティング

村上 日奈子 さん



地域ぐるみで「石巻」の特産物の輸出拡大に向けた取組を！

東日本大震災により深刻な被害を受けた宮城県石巻市において、主要産品である水産加工品を中心とした地域の食品の共同輸出と輸出拡大に向けた取組を地域ぐるみで行うため、平成28年5月に官民からなる協議会が設立されました。

協議会は、石巻市のほか、地元の農協、漁協、卸売市場、商工会議所、観光協会などから構成されていますが、実際の活動はその傘下会員である30社の水産加工を中心とした事業者が行っています。

事務局は石巻市が務めています。活動の企画と推進を石巻に事務所を有する株式会社フィッシャー・マン・ジャパン・マーケティング (FJM) に2020年から委託をしています。FJMは輸出の専門知識を活かして輸出実務に係る相談窓口も設置しているほか、水産地域商社として輸出実務や代金決済なども行っています。



米国でのマーケティング調査



マレーシアでの「石巻フェア」

協議会は、最近では国の補助金も活用しながら、米国の小売店や飲食店でのマーケティング調査や商談、マレーシアの飲食店での「石巻フェア」の開催、海外のバイヤーやシェフの石巻への招聘などの取組を意欲的に行っています。また、主要輸出先国である米国の食品衛生規制に対応するため、専門家による勉強会の実施や現場監査等も行っています。

石巻には高度な衛生管理基準を満たす施設・設備及び高度な加工技術を有する水産加工事業者も多く、将来的には「石巻ブランド」として共通のブランドやパッケージで海外に輸出することを目指しています。

Q. 協議会を立ち上げたきっかけは？



東日本大震災からの復興にあたり、水産加工事業者が喪失した販路に替わる海外の販路開拓に取り組んでいましたが、市の主要産業である水産業等の振興のため、市として、本格的に取り組むべく、声掛けを行い、関係機関がオール石巻として一丸となった協議会を平成28年に設立しました。

Q. 「行政関与型」のメリットは？



事務局を市が務めることは、市として本気で取り組むという事業者への強いメッセージになりますし、財政面等の行政支援をよりの確にできると考えています。

Q. 事務局を一部委託したのはなぜですか？



基本的な事務局業務は市が担いますが、活動の企画や推進、パートナーとの関係づくりなど民間に強みがある機能は事業者から信頼を得ているFJMに委託することで、官民両方の強みを活かす体制づくりができると考えたからです。

Q. 協議会の目指すべき姿は？



将来的には、石巻ブランドのもと、各事業者が自立した本格輸出に取り組めるようになればいいと思います。これまでの取組を通じ、新たに独自で海外に売り込むなど、事業者の意識がポジティブになってきていると感じます。

団体概要

所在地 宮城県石巻市 会員事業者数 30団体・組織
 設立年 2016年
 HP <https://www.ishinomaki-foodexport.jp/>

輸出までの道のり

STEP 1/4

平成28年5月
「石巻食品輸出振興協議会」の立ち上げ



STEP 2/4

平成29年度～令和元年度
香港、シンガポール、タイを中心に輸出の取組を展開



STEP 3/4

令和4年度～
新たにアメリカをターゲットに追加



STEP 4/4

物流面での輸出体制の強化を含め、更に取組を実施することにより輸出を促進

